



株式会社光建

代表取締役 MASADA KOJIRO

正田 光次朗さん

人を惹きつけ、人が育つ、 建設業×データサイエンス

中部地域における 地中送電線工事の トップランナー

当社は、1951年に土木工事を担う(株)東組名古屋支店として設立され、矢作川の水力発電所工事を手掛けた後に独立、1973年に現在の社名に変更しました。地中送電線、変電所、水力・火力発電所などの電力土木や道路・河川、上下水道など、規模の大小・工種を問わず幅広くインフラ工事を手掛けています。特に、地中送電線工事では施工総延長が

150kmを超え、中部地域でも有数の規模を誇ります。

当社の強みは、工事の施工管理・現場監督を担う「技術者」と、重機オペレーターや大工、左官工などの「技能者」を自社で雇用し、お客様のニーズに自社単独で迅速かつ柔軟に対応できることです。また、多能工が多数在籍し、工事に必要な重機や資材も自社で保有しているため、施工の難しい現場や災害などの緊急時にも臨機応変に対応できる点もお客様から評価をいただいています。

地域建設業の 勝ち筋を見極める

業界動向を建設投資額で見ると、1992年の約84兆円をピークに、2010年には約42兆円まで落ち込みましたが、激甚化する自然災害への対応や老朽化するインフラの維持・補修などから、2023年には約70兆円まで回復しています。一方、従事者数は右肩下がりで、担い手の高齢化も進んでいます。特に、技能者は今後10年間で百万人近くが引退するとも言われ、若手人材の確保と技能伝承が業界全体の課題です。

大規模な現場では、自動化や無人化といった解決策もありますが、当社のような地域建設業が扱う現場は支障物や制約条件が多く、どうしても人による作業が必要なため、企業の持続的成長には「人を惹きつけ、人が育つ」ことが何よりも重要です。

私は、日米の大学院で学んだ後、エネルギー会社での海外勤務などを経験し、2020年にアトギとして当社に入社しています。もともとバスケットボールが好きで、選手のプレーをデータ化し、解析・解説するTV番組をよく見ていました。こうしたスポーツ分野での科学的アプローチを建設技能に適用し、魅力の可視化や



海外人材は、現場での活躍はもちろん、人間工学とデータサイエンスを組み合わせることで建設技能を可視化する取り組みもリードしています(写真上、右下)。熟練技能者の作業中の視線を解析、そのカン・コツをARゴーグルに表示することで追体験できる学習ツール開発もその一環です(写真左下)。

Column

＼ 愛用のアイテム紹介 /

タブレット・手帳



タブレットと手帳は常に持ち歩き、打合せ時のメモなどは、タッチペンでタブレットに直接書き込みます。手帳カバーは前職でインドネシアに駐在していた頃に貰ったプレゼントで、今でも大事に使っています。

Company Data | 会社概要



株式会社光建

〔創業〕1951年
〔所在地〕名古屋市中区千代田一丁目7番8号
〔TEL〕052-251-2261
〔URL〕<https://www.kouken-nagoya.com/>
〔事業内容〕インフラを「つくること」「なおすこと」「とりのぞくこと」



唯一無二の 企業ブランディング

また、海外人材も積極的に採用しており、技能者から高度人材・技術者やデータサイエンスの研究者まで、社員60名のうち11名が海外人材です。職種や宗教的な背景なども理解しながら、社内で融和し、会社に貢献してもらえるよう努めています。

お客様や働き手に選ばれるためには、「この会社と(で)仕事したい」と思ってもらうことが、今後ますます大事になってくると思います。当社の場合、地域に密着した建設業でありながら、「海外人材×研究開発(サイエンス)」という特長を磨きあげ、唯一無二のブランドとして、これからも選ばれ続ける会社であり続けたいです。